

## タイ・スリランカ津波災害現地調査の概要

平成 17 年 1 月 14 日  
港湾局/港湾空港技術研究所

去る 12 月 26 日に発生したスマトラ沖地震によりインド洋沿岸諸国には甚大な津波被害が発生した。

今回の津波被害の甚大さに鑑み、国土交通省所管の独立行政法人港湾空港技術研究所は、津波被害の実態及びそのメカニズムを把握し、将来発生が懸念される東海、東南海・南海地震による津波災害防止に関する貴重な情報を得るためにも、国内各大学等の津波災害研究者とともに、下記の通り現地調査団を派遣した。

両調査団からは、津波の高さや被害のメカニズム等の実態が明らかになる等の成果が得られたところである（速報結果の一部は別添参照）。詳しくは、来る 1 月 17 日に神戸で開催する「津波防災国際ワークショップ in 神戸 2005」及び 1 月 18 日の国連防災世界会議パブリックフォーラム「これからの津波防災に関する国際シンポジウム」において報告する予定である。

### 1. タイ現地調査団

- ・調査日時：平成 16 年 12 月 30 日～17 年 1 月 4 日
- ・主な調査地点：プーケット島周辺

調査団員：松富英夫 秋田大学工学資源学部土木環境工学科助教授 < 団長 >  
高橋智幸 秋田大学工学資源学部土木環境工学科助教授  
平石哲也 (独)港湾空港技術研究所海洋・水工部波浪研究室長  
松山昌史 (財)電力中央研究所地球工学研究所主任研究員  
原田賢治 京都大学防災研究所巨大災害研究センター COE 研究員

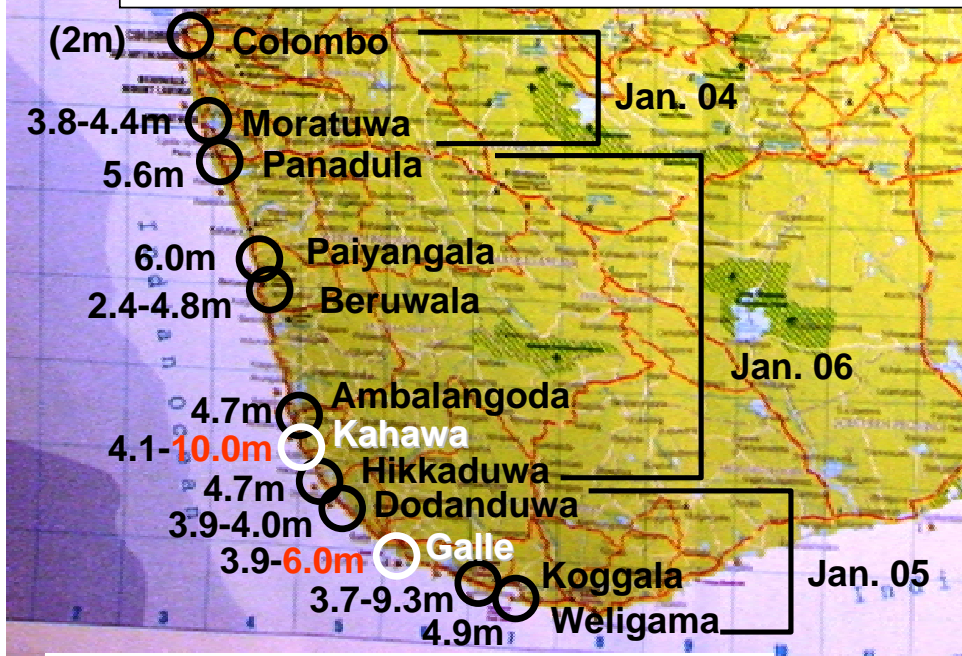
### 2. スリランカ現地調査団

- ・調査日時：平成 17 年 1 月 3 日～8 日
- ・主な調査予定地点：ゴール港等南部周辺

調査団員：河田恵昭 京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授  
今村文彦 東北大学災害制御研究センター長・教授  
富田孝史 (独)港湾空港技術研究所海洋・水工部高潮津波研究室長 < 団長 >  
有川太郎 (独)港湾空港技術研究所海洋・水工部耐波研究室主任研究官  
安田誠宏 京都大学防災研究所助手

# スリランカ南部における津波痕跡高及び被害状況

調査団の測量結果により、スリランカ南部には2～10mの津波が襲来したことが判明した。



津波で押し流された列車 (カハワ)



被災した岸壁 (ゴール港)

スリランカ調査団の調査地域 (左は津波痕跡高 [単位:m] 右は調査日)



打ち上げられた浚渫船 (ゴール港)

# タイ・プーケット島周辺における津波痕跡高及び被害状況

調査団の測量結果により、プーケット島西岸及び皮皮島には5～7mの高さの津波が、北寄りのカオラックには10～12mの津波が襲来したことが判明した。

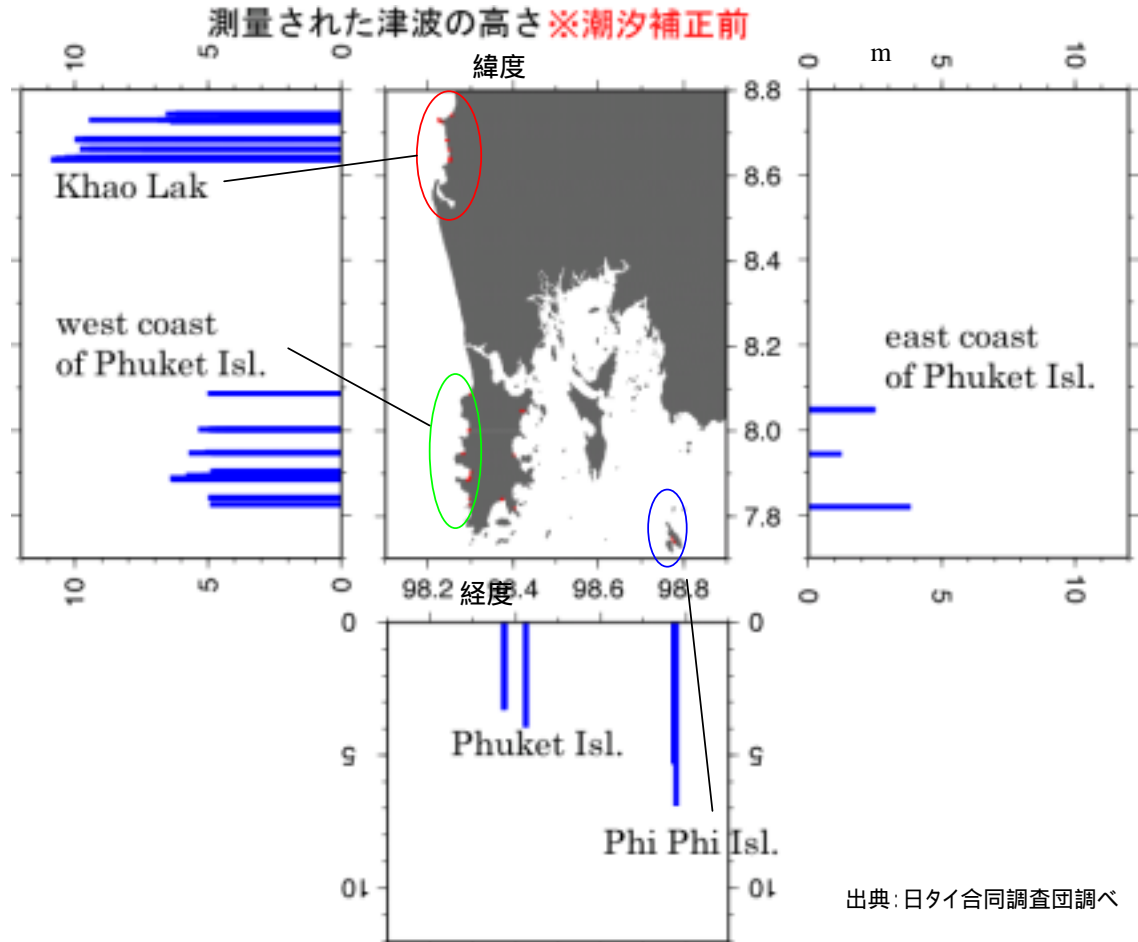


壊滅的被害を受けたカオラックリゾート



パトンビーチに打ち上げられた船舶

カオラックリゾートに比べると浸水域が小さいのは、海岸部のホテル等が津波力を減衰させる効果を有したものと考えられる。



出典：日タイ合同調査団調べ